

みどりの女神が行く!



ミス日本みどりの女神

なりた あすみ
成田 愛純

先日、緑の羽根着用キャンペーンの一環で総理官邸に伺い、岸田総理大臣に緑の羽根着用と緑の募金運動のお声がけをさせていただきました。

岸田総理大臣との歓談では、みどりの女神の活動を報告したほか、カーボンニュートラル、脱炭素など、これからの日本の未来へ向けてのとても興味深いお話をいただきました。

総理からは「これからを担う若い世代に期待している」というお言葉をいただき、改めてみどりの女神として責任の重さを感じました。

もっとたくさんの方々に緑の募金運動の大切さ、この活動によって行われている緑化活動の重要性を知っ

ていただき、一人一人が日常の中で当たり前前に森林保全を意識して生活できればいいと思います。



▲岸田総理大臣に緑の羽根を着用して頂きました!

また、別の日には、神奈川県三浦半島にある小網代の森へ行きました。

ここは川の源流から海まで、森林・湿地・干潟などが連続して残されて

いる関東地方唯一の自然環境と言われています。

車で近くに着くと周りは住宅地で、どこに森があるのだろうと思いましたが、一本道を歩き進んで行くと森の入り口があり、そこからは全く違う景色が広がっていました。

森の中には長さ1キロほどの川の源流があり、徐々にその大きさや形を変えていきます。またその川も場所によって二本になったり、三本になったりしていました。

これはその場所の植物の環境に合わせて人工的に川の流れを変化させており、生物や植物が増えやすいようにしていると教えていただきました。

また、川に沿って設けた木道は、お年寄りからお子様まで誰もが森の癒しを感じられるようになっており、新しい森の形だなと感じました。

全く手を入れない森も大事かもしれないませんが、木道によって人が入りやすくなることで豊かな自然環境が知られることもあるのだと思いました。

見られる生物や植物は季節によって異なるため、一年を通して違う楽しみ方も味わえます。今回の視察で

この小網代の森がいかに多様性に富んだ流域であるか、という事が分かりました。



▲多様性に富んだ小網代の森にて

私はふと考えることがあります。地球が誕生してたくさんの生物が生まれた中で、なぜ人類だけが著しく進化したのだろう、と。

それはこの地球という星をより良く発展させながら、これからもずっと守っていけるのが人類だからではないかと私は思います。その役割は「誰か」ではなく、人類の「誰も」の役割であり、人間に生まれた私たち一人一人の役目です。

この小網代の森では、生態系一度に学ぶことができます。この生態系も人類が関わりながら、人類に守られて成り立っています。この森に足を運んでいただき、私たち人類がやるべき役割を考えるきっかけとなり、この素晴らしい地球をみんなの力で次の世代へ引き継いでいけたらいいなと感じました。